

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394700039		
法人名	株式会社 イズミ		
事業所名	グループホーム いわくらの泉		
所在地	愛知県岩倉市八劔町井ノ下20番地		
自己評価作成日	平成24年9月25日	評価結果市町村受理日	平成24年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番の5 かえでビル2階		
訪問調査日	平成24年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「絆」をテーマに笑顔と心を大切にしております。毎月恒例のモーニング、外食レク、春と秋の遠足、ボランティアさんによる催し物など行事満載です。地域の交流の場となるよう目指しております。また、毎日午後から買物へ入居者様と行き、外部との触れ合いをしております。また、ユニットごとに飾り付けを入居者様と完成し展示しております。他には入居者様と草取りをしたり、夏にはバーベキュー、花火大会、地域の盆踊りに出席したりなど施設に閉じこもりをなくす環境に努めております。昨年の秋の遠足は三重まで外泊をしました。認知症の方の環境の変化に追われ、対応が大変でした。しかし、普段の経験以外に楽しみを増やし、ホーム以外での生きがいや余暇生活を楽しんで頂きたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム開設2年目を迎え、本年1月には2ユニット目を増設した。理念の「絆」を基本姿勢に、入居者とその家族との信頼関係を大切にしている。グループホームを「明るく安心できる家庭、その人らしい家庭」にするように、職員はチームワークを取り合い、入居者の笑顔を引き出せるケアに努めている。入居者は明るく広いリビングに集い、季節感あふれる手づくりの作品に囲まれながら職員とゆったり楽しく過ごしている。季節の行事や催し物に参加をしたり、独自の外出泊計画を立てて、入居者の楽しみを増やす様な外出支援が活発に行われている。地域とのつながりも、一つひとつの実績を積み上げながら、模索をしつつ前進する努力をしている。介護記録では入居者家族等が分かりやすい様に、専門用語や略語を使わない記録の改善が図られ実施されている。職員全体のサービス向上への意欲が感じ取れる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に提示し、事務所にも提示しております。笑顔を大切に日々のケアを行っております。理念を理解している職員は少ないのが現状です。	事業所理念は、職員等誰もが目に付き、確認しやすいように、事務所や玄関に掲示されている。職員は入居者の笑顔を引き出せるようにと理念に沿ったケアの実践やチームワーク作りに努力をしているが、全体とし管理者は、もう少し努力が必要と感じている。	理念をより深く理解して日々のケアに活かすために、毎日の申し送りやミーティング、研修会等を利用し意識付けを図る工夫を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りに参加したり、買物へ毎日お出掛けしたり、喫茶店や外食に行き地域との交流を継続している。また、畑の方には駐車場を利用して頂いている。春から地域の方に畑をご指導して頂き、家庭菜園を完成できました。	地域の行事に参加したり、清掃活動や日常的な買い物、外食や喫茶店でのモーニングなど地域交流を継続している。また、近隣の家庭菜園をしている人に施設の駐車場を利用してもらったり、野菜作りの指導を受けるなどして交流を深める努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1回、18時30分～1時間、出席できるスタッフと勉強会を実施しました。まだ、地域の方と一緒にするのは達成できていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1回、第3火曜日に10時～実施しております。その際にレクの場所のアドバイスを頂きその場所に行っております。	入居者代表1名と家族、区長、民生委員、地域包括支援センター等が参加し開催している。入居状況や活動状況報告、情報交換や意見交換がされ運営に活かされている。次回の開催日を知らせるなど出席への工夫が見られるが、家族の出席が少ない。	利用者家族にとっては外部へ意見を表出する機会でもあるので、運営推進会議の様子を知らせて、参加への意識を促す意味も含め、会議記録を利用者家族に配布するなどの工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	回覧板や区長さんとコミュニケーションを図っております。	市の担当者とは月に一回、電話にて報告や連絡等を行っている。運営推進会議では地域包括支援センターの出席で介護保険等について具体的な話し合いがされている。	運営推進会議以外にも、日頃から行政の担当者と連絡を密に取り、事業所のサービスの取り組みや実情等を話し合い、協力関係を築くことを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	まだケースはありませんが、身体拘束の書類を作成しました。必要時にはご家族様と現場職員と話し合いたいと思います。玄関は昨年と同様、朝の5時から夜の20時まで開放しております。夜間は防犯の為施錠。日中は手動で開けるようにしてあります。	玄関は日中、解放されており入居者は職員の見守りの中、自由に出入りをし敷地内の散歩やベンチでの休息を楽しんでいる。年に1回は拘束について研修を実施し、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時、更衣時に全身のチェックを行い傷の確認やアザの確認を行っております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	テーマとして取り上げて勉強会はできていませんが、今後そのような機会が設けられるように検討していきたい。他の議題にて勉強会をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様に郵送にてお知らせし、ホームにお見えになったときに管理者から説明させていただいております。日頃のご様子は面会に見えたときに現場職員から説明させて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や意見があったときは、申し送りさせていただき、ミーティングを通して反映させております。	運営推進会議や家族交流会、面会時等に意見や要望を伺い、すぐに対応をしたり、ミーティングを通して運営に反映させている。ホーム便り「絆」を発行して、入居者の様子を伝えて家族の安心を得るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時や随時ご意見があるときに反映させていただいております。	月に1回、ユニットごとに全員でのミーティングを開催している。全員参加の工夫として、その時間帯に、もう一方のユニットからフォロー要員を出し入居者のケアにあたり、意見や提案が十分に出されるようにしている。会議結果及び随時の意見等も運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一度は面談をしております。それ以外にも個別面談を定期的に行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交換研修を同じ法人内で行う予定です。他にはケアの成功例の共有や外部研修を行っております。月1回は勉強会を18時30分～実施しております。参加は自由参加です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外での交流の場を実施できておりませんが、今後導入していきたいと思っております。外部から研修のお声はかかっていますが現状出席ができていません。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で困っているところはご本人様にお伺いしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様、ご家族様が思う内容にも耳を傾け、よいサービスになるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご説明するときに、当ホーム以外にも違うサービスがあることを伝えて対応させて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ空間にいる以上、共に作業し、役割を担って頂いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との交流を図れるよう機会を設けております。季節の衣替えのときは、ご家族様に足を運んで頂いて交流の機会を設けさせて頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方や知人の方が見えたときはご家族様から制限がなければ面会を9時～19時までもうけています。帰られる際は「またお越しください」と伝えていきます。	不安定で落ち着きがなくなった入居者が、以前絵を描いていたことから美術館に同行し、落ち着きを取り戻された事例がある。また、海女をしていた入居者とは、海を想わせるイルカ池に一緒に出かけたこともある。退居して施設入所された方への面会にも行っている。回想法を用いたケアや年賀状	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一つ屋根の下で暮らすと様々なトラブルはつきもの。いろんなアプローチで輪に馴染めるようにしております。全員に声掛けを行い全員でできるように心掛けております。、全部が思い通りにはいきません。認知症の方の気分とご機嫌にもよりますのであきらめず支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様の次の場所に面会へ行き、ご家族様には行事の際にお声を掛けさせて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望を傾聴している。	一人ひとりにより添い傾聴を基本に、日常生活のあらゆる場面で思いや意向の把握に努めている。特に、1対1で会話ができる入浴時間等は本人の気持ちを聴く良い機会となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント以外に、日々の何気ない時に質問し回想法に努めている。居室は自由に使用していただいております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の状態に合わせ、一人一人の暮らしに合わせた。個々のケアプランをきちんと把握しそれにそった介護の提供。特変があれば申し送りノートの活用。全員が現状を把握できるようにしていますができていないスタッフもみえます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	おおむね3か月おきにケアプランの見直しをし、ミーティング時に全職員で話し合っております。ご家族様にもご意見を頂戴しております。	職員は常時、入居者の状況を把握すると共に、本人や家族からの新たな要望や状況も加味し、月1回のミーティングで介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に一日のご様子をわかりやすく記入しております。気づいたことは、ミーティング時に話をして見直しをさせていただいております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズにより、管理者やスタッフで対応している。可能な限りではご家族様が主になって一緒に取り組む体制を構築したい。一部のスタッフはまだ柔軟な支援やサービスに至らない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物に毎日かけております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人およびご家族様に選択して頂いております。遠方でかけつけられない場合は管理者が対応しております。	入居者は2週間に1回、認知症専門医の往診を受けている。本人が希望する医師への受診、必要な診療科目の通院は家族に協力を得ている。都合の悪い時や緊急時は管理者が対応している。家族には受診結果を報告し、職員には申し送りノートで周知を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護師がみえないので、往診の先生に相談したり、薬剤師に指導頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は介護サマリーを提供しております。またはお見舞いに行き、ご本人様のご様子を伺います。ご家族様とも連絡をし、退院サマリーを提供していただいております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年と同様今後の課題の一つ。まだ終末期と直面していないのが現状で職員とご家族様と話し合っていて決めている。	重度化した場合や終末期支援のあり方についてグループホームの対応の指針は現在のところ作られていない。今後、家族や職員と話し合い、取り組んでいく計画である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング・勉強会・避難訓練や普通救命講習などを通して訓練しております。日中であれば現場スタッフが協力してできますが、夜間時の対応に真の対応が求められる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全員参加にて消火訓練、避難訓練を年に2回実施しております。全員参加で実施しております。	年、2回避難訓練を行っている。6月の自主避難訓練では、全職員が参加し、夜間想定通報、初期消火、避難誘導等を行っている。災害時に備えて1週間分のレトルト食品と米を準備している。	避難訓練の実施と反省が運営推進会議で報告されているが、地域の協力と連携の大切さを知ってもらえる良い機会となっている。この経験を活かし、地域との連携と協力体制を築いていくことを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会をひらき今一度自分を見つめなおして頂いていますが、まだ不適切な言葉かけをしているスタッフが見える為、ご指導が必要	管理者は入居者の人格や誇りを損なうことのないように勉強会を開いたり、その時々には指導をしている。職員はそのことを理解して対応に心掛け、居室に入る際にはノックや声掛けをしたり、言葉遣いも人生の大先輩として敬い気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望を表すことはできるようしております。ただし、すべてに自己決定ができるわけではありませんが、極力自己決定を選んで頂く。いざ決めて頂くときに「わからない」と決めれないときもあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフによってはまだまだ都合で動いてしまう方も見える。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせた身だしなみができるように支援している。例えば、マニキュアを塗ると喜ばれる。出来る限りご自分の好きな服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には入居者様のお気に入りの献立を盛り込んでいる。皆で力を合わせて食事の後片付けをしている。個々に合わせた役割を担って頂いております。例えばテーブル拭きやもやしのひげ取りなど実施。	献立は入居者の希望も取り入れて、職員がたてている。食事の準備や後片付け等、個々の能力に合わせた役割を職員と一緒にやっている。食事前には職員が考案した嚥下体操を行っている。職員は入居者と共に食卓を囲み、一緒に食べることで日々の変化や様子の見守りを行っている。職員の	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は個々に合わせて提供している。水分は声掛けして促していかないと確保されない入居者様が見える。その個々に合わせて促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、口腔ケアは実施しております。起床時、毎食後に習慣しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録に残しているものの、歩行している時に失敗してしまうときがある。昨年と同様、リハビリパンツから綿パンツに変更しました。リハビリパンツのままのかたもみえます。	トイレ誘導は一人ひとりの排泄パターンに合わせて対応し、リハビリパンツから綿パンツへと自立に繋げている。夜間、回数の多い方の誘導等、職員のきめ細やかなケアが継続されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性の入居者様は下剤にてコントロールしているのが現状です。起床時に牛乳を飲んで頂いたり、乳酸菌を朝、飲んでいただいております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	残念ながら、入浴は夕方からです。夜に入浴できるというのですが、入浴を好まれる入居者様には提供させていただいております。入浴嫌いな人はその人に合わせて、入浴をしていただいております。無理に入浴はさせず本人様の気持ちが一番に優先しております。	毎日、午後4時から入浴をしている。風呂嫌いな方、同じ服を着たい方、洗髪嫌いの方など、職員は個々の性格を把握し、工夫をして無理強いのない気分の良い入浴に繋げている。退院後寝たきりになった方がシャワー浴で対応していたが職員のアプローチにより立位可能となり、浴槽での入浴	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のスタイルに状況に合わせて休息して頂いている。ただし、日中のリズムを作り、夜間眠れるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用などきめ細かく理解しているとはいえない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の役割を持って頂き、過ごせるように取り組んでいる。しかし、取組めていないスタッフもみえる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望によって外出できるようには支援できていない。家族の協力や地域の人々の協力がまだ欠けているとおもう。	日常的な外出支援は計画されていないが、施設内の中庭に出たり、買い物に行く利用者もいる。月に2回の喫茶モーニングや外食レクレーションを入居者は楽しみにしている。1泊旅行等が、入居者のリフレッシュと職員の質の向上を兼ね実施されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、難しい。金銭トラブルになるといけないので、金庫にてお預かりさせて頂いている。ご本人様も心配して見える方にはお預かりしている旨を伝えております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は掛けようとするかたがみえない。帰宅願望により訴えられる場合、ご家族様も困る方も見える為、その場の声掛けにて返答している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るくなるように季節の飾りをしている。また、危険になるようなものには置かないようにしています。	玄関には職員の顔写真が各々の目標と共に紹介されている。ホーム内は各ユニット共、入居者の作品や行事写真、動物セラピーの写真等で季節に合わせた飾りつけがされている。リビングは明るく清潔で、入居者の希望に合わせてエアコンの冷風を調整するための工夫も見られ、居心地よく過ごせる共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	配慮させて頂いております。ソファ一席やテーブル席を設けそれぞれの居場所で過ごして頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や衣替えの際にはお伝えさせて頂いております。現状、簡易的な備品で揃えて頂いております。また、以前使用していた家具などを持ってきていただき空間づくりをしております。	居室のエアコンは職員管理により適温が保たれている。ベッド、布団、筆筒等馴染みの家具が暮らし易いように配置されている。家族の写真や手芸作品等も個性豊かに飾られ、居心地良く、安心して過ごせる居室づくりがされている。入居者は個々の能力によりモップ掛けの掃除を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできるところは声掛けにて支援させて頂いております。トイレにも矢印にて開く方向を提示してトイレの扉を開け閉めできるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394700039		
法人名	株式会社 イズミ		
事業所名	グループホーム いわくらの泉		
所在地	愛知県岩倉市八劔町井ノ下20番地		
自己評価作成日	平成24年9月25日	評価結果市町村受理日	平成24年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番の5 かえでビル2階		
訪問調査日	平成24年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2階は今年になってから入居者様が入所しただけばかりで理念の共有し実践がまだまだです。把握できていない職員が見える。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーへの買物と月1回のペースで喫茶モーニングの実施。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ支援方法を地域の人々に向けて発信できておりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、第三火曜日の10時から実施しております。ご家族様の出席率はまだまだです。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特になし。運営推進会議を通す。他には区長さんが見えたときにお話しさせて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2階はエレベーターですが、階段は電気錠扉の為自由な出入りはスタッフのみ。エレベーターのボタンは目隠ししてあります。フロアーからホールは施錠を一切しておりません。ベランダは必要時以外は施錠してあります。拘束はしていません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通じて機会を設ける予定。虐待のおそれのある事例はいまだ該当なし。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はまだ設けていないのが現状です。職員は認識不足。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様がお見えになったときに管理者もしくは職員からご説明させていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に見えたときなどに意見を頂戴しております。その上で極力意向に沿うようにミーティングや運推などのときに反映させて頂いております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一ミーティングを実施し、意見交換を行い取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望・不満を汲みとりできる範囲で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修も少しずつできるようになってきた。外部研修も始まってきているが不足している。全員参加は難しい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あまり取り組んでいない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中でできるだけ、利用者様と接し、良い関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努力しているものも、面会等が希薄なご家族様もあり、極端である。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面接、聞き取り入所時の再確認を行い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買物、外食、外出などを実施し努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にお便りを発行し、近状報告を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ほとんど実施できていない。場所にはなかなかいけないのが現状。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク、共同作業などを行い極力努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転出先の施設への面会などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成し、達成状況を見極め見直しなどを実施。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプラン作成・見直し、記録に残し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察、記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングを行い、必要なケアを探しだし、作成し実践している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りノートを活用し統一介護に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診など対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医に相談し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアについてはできていない		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受講し、初期対応はできている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の避難訓練を実施しているもののまだ地域との協力が希薄。これからの段階。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で希望を聞き出せるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そのように心掛けております。何もないという方も見える為こちら側の呼びかけにて楽しんで頂いております。時としてずれている場面があるので注意したい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は極力本人に選択して頂ける様している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の入居者様に合わせた配分で食事の準備、食器拭きをして頂いております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量によって調節しております。また、嚥下機能に合わせた食事形態を提供。水分も最低限必要な摂取分を声掛けにて飲んで頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に実施するようにスタッフにて声掛け、習慣になっている方はご自分で口腔ケアをされます。必要に応じ介助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの声掛け、誘導を行い実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを参考に、朝食時の牛乳や乳製品をメニューに取り組んだり、できる時に運動をすすめる。または下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望はご本人様ですが、時間帯は夕方のみになったおります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後はくつろいで頂き概ね20時頃までテレビを観て過ごされています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現状、全部を把握している職員は少ない。ただ用意された薬を服用して頂く様になっている。もう少し、細かく理解していただくよう個々の勉強		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の満足は難しいかもしれませんが、生活歴から役割を活かしている。例えば、畑仕事していた方には中庭の畑や草抜きをして気分転換している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望については途上段階であるが、全体で一泊旅行。遠足等実施している。家族・地域協力についても途上段階。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一括管理しており、外出時の支払いも職員管理。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ほぼできていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と一緒に完成させた絵や文字等の壁面を飾っております。作品を完成するたびに上手になっていくことが目にみてわかります。2階は華やかな明るい雰囲気づくりをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あまりできていない		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、使い慣れた物を持ってきてくださるようをお願いしております。湯呑や箸など個々の好みので心地よく過ごしていただいております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の名札を示してある。		